

多摩川の源流がどこか、知っていますか？ 奥多摩湖？  
いいえ、そうではありません。山梨県は笠取山という、  
高さ1,953mの山が多摩川のふるさとです。  
今回は多摩川の最初のひとしずくをたずねて、  
「多摩川癒しの会」の酒巻京子さんといっしょに  
笠取山を歩きました。



**3** 分水嶺  
笠取小屋を通りすぎ、笠取山を目の前にした小さな峰にある分水嶺は、3つの川に分かれ目をしるしたもの。この峰の東側に降った雨が荒川、西側に降った雨が富士川、そして南側に降った雨が多摩川となるのです。降った場所が少しちがっただけで、姿かたちもちがう別の川になっていく、自然の不思議を感じます。



**1** 作場平口  
笠取山への入口・作場平口にはこんな看板が立っています。今回歩くのは、上のマップでいうと茶色のコース。往復約5時間の源流行です。

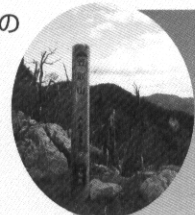
**2** ヤブ沢峠までの道  
小川を左に見ながら落ち葉が  
つもったふかふかの道を歩きます。  
この落ち葉は森に降った雨を受けと  
めるクッションの役目をするのだ  
とか。落ち葉を通して、やさしく土にしみこんだ水がゆっくりと下へ  
移動し、地下水となり、やがて溪流へ流れ出していくのです。



**4** 水干 (多摩川最初の一滴)  
「水干」とは、沢のいきどまりという意味です。ここからこぼれ落ちる水が、多摩川最初のひとしずく。酒巻さんも生まれたての多摩川を味わいます。「笹の葉にのった露のような、透明で甘い味がします」。



**5** 笠取山の頂上  
「山梨百名山」にも数えられている笠取山の頂上まで足をのぼしてみました。お天気がよければ富士山も見えとか。こんなゆたかな自然から生まれた水が、都市を流れ、東京湾にそそぐ大河に…。多摩川の変化の多い一生がしのべれます。



案内人 酒巻京子さん

世田谷区に住む酒巻さんは「多摩川癒しの会」のメンバーとして、春は野草の天ぷら、夏は川歩きやバーベキュー、秋はイも煮、体の不自由な人もそうでない人もへだてなく川を楽しむお手伝いをしています。源流行は2回目。「最初は源流がどうなっているのかを知りたくて、予想以上に自然ゆたかでびっくりしました。今回カラマツの紅葉がキレイだったわ」

